

ひつり三河く生ま

東照宮にほろりさうのつる天正三年

篠合戦小供奉ら^{寛永}譜此は佐久間信盛

瀧川一益勝く系て柵外小出強くは止

光正仰と蒙りて小栗大六重常しく共

にかしこにさう柵内小出おまとい入

心^{四戦}此役小組討て功名とありさ

其後武田勝頼遠江國乾く去成出ひよ

つ^按より小原文より井伊谷よりありこれとも井伊谷の戦より

永禄十二年十月より此時居城あり天正三年以後戦

不見らるる今家譜及び武徳大成に

等によりて乾く河くさありさ

東照宮御出馬あり清合戦くさうりる

小清方利と失ひはまハ諸勢と引揚給ふ

とさ原田佐右衛門と光正兩人矢と入れ

らる敵と退け殿いかにうり軍功あり

はまはしとさ三河國和泉村より二百石

は采地とたまひのち遠江國より二百

石代加給同十八年關東清入國下上地
 地と替て武藏國少く五百石とたふり
 慶長十七年八月廿三日駿府小とて死
 其子次郎左衛門正信ヨシノブ武藏小生る
 台徳院殿小つう之奉つ上坂冬夏御
 陣小供奉以後清小性組に列寛永其後
 清書院番に後つ上東玄 實派寛永九年より
 大猷院殿小結う寛永同十年新

恩二百石とたまひし之七百石れ地次
 知行寛永 家譜正保二年正月十七日に死
 其法名淨林家譜其子七郎右衛門
 正倫寛永武藏に生れ寛永寛永十年
 大猷院殿小辨禰同十八年四月より
 清小性組小列正保二年遺跡とつ

所日記今川西城清小性組
 箱生次郎八正辨より